

第2回
真備地区復興計画
策定委員会

平成30年12月20日
倉敷市

委員会	説明内容
第1回 (11/21)	<ul style="list-style-type: none">(1) 真備地区の特性・現況について(2) 復興懇談会の開催・意見について(3) 復旧・復興に向けたまちの課題について(4) 真備地区復興計画策定の目的・構成・スケジュールについて
第2回 (12/20)	<ul style="list-style-type: none">(1) 第1回真備地区復興計画策定委員会での主なご意見について(2) 復興に向けた基本理念（案）などについて(3) 主要な施策（案）について(4) 今後の予定

項目	ご意見の概要
治水対策	<ul style="list-style-type: none">● 早急な治水対策による安全・安心の確保が必要。● 堤防決壊箇所の迅速的な強化。
生活再建 (住まい)	<ul style="list-style-type: none">● 災害公営住宅は1箇所に集約するのではなく、既存のコミュニティに配慮した建設を。● 倉敷や水島地区の居住地でもあるため、一日も早い復興ができるようスピーディーな対応を。● 住宅再建が難しい方など復興弱者に焦点をあてた取り組みが必要。
防災・減災 まちづくり	<ul style="list-style-type: none">● 5年間の緊急治水対策で安全・安心になったと思われると、その後の避難行動に油断が生まれる。● 近年、異常気象が多発するなど、日本中どこでも「完全に安全ではない」ということを頭に入れること。● 従来の防災の2本柱「治水+避難」に加え、万が一浸水したとしても大丈夫なまちづくりに、ハード・ソフトの両面から取り組むことで、日本全国が真似したくなるモデルとなる。● 災害を風化させない取り組みを。

項目	ご意見の概要
避難体制・ 避難所運営	<ul style="list-style-type: none">● 小田川等の改修工事が進む5年の間、どこに避難すれば自分や家族の命を守ることができるのかが一番の問題。安全・安心な避難場所の確保に向けて早急な検討が必要。● 避難所運営のあり方の見直しを含め、障がい者などに配慮した防災・減災対策・地域づくりが必要。● 子どもや高齢者は大雨の中、徒歩で避難することは難しい。車を利用した避難もある程度は考えることが必要。● 東西だけでなく、山側に逃げるといった意識が醸成できれば良い。各居住地の周辺で収容できる場所を整備する等、複数の避難場所・避難経路が選択できる将来のネットワークを考えていく必要。● 住民は日常的に利用していない施設への避難はしにくい。日常的に避難場所をどのように利用していくかが重要。● 災害公営住宅が発災時の避難所として利用できれば良い。● 歩いて避難する住民への対応。

項目	ご意見の概要
コミュニティの再建	<ul style="list-style-type: none">● 住民の活動拠点となる施設（公民館分館・コミュニティ広場等）の早急な復旧。● ハード整備だけでなく、昔から大切にしてきた人と人の絆などソフトの部分も必要。● 新しいコミュニティづくり、希望がもてるまちづくり等が必要。
復興まちづくり	<ul style="list-style-type: none">● 復旧・復興の状況に応じて移動の目的地が移り変わるため、公共交通の計画は機動的に考えていく必要。● 真備地区では道路が狭く、南北の道路網の整備など、新しいまちづくりとして、復興に向けた道路網・インフラの整備が必要。
産業（農業・商工業）の振興	<ul style="list-style-type: none">● 農業従事者の高齢化・後継者不足は深刻な問題。荒廃地・耕作放棄地への対策からも、農地の集約・大規模化等の施策が必要。● グループ補助金の申請書作成は申請者の負担となっているため、可能な限り早急に専門家等の派遣をして欲しい。● 若い人たちが戻れるような新しいまちづくりを進めたい。

項目	ご意見の概要
土地利用	<ul style="list-style-type: none">● 全体的な人口減少が進んでいく中、安心・安全で住み続けられるまち、将来に希望が持てるまちづくりを進めていくためには、被災前の状況に戻すだけでなく、集約（コンパクトなまちづくり）を本気で考える良いタイミング。● 市街化調整区域、農業振興地域の指定により住宅が建設できない。● 今回を契機に農地のあり方・土地利用等について見直して欲しい。
計画策定・ 検討事項 全般	<ul style="list-style-type: none">● 復興は元に戻すことや課題解決ではなく、持続性のある明るい未来を開いていくこと。災害前よりも地域が発展に向かうように。● 今後の復興を考える上では、常に今までよりも一歩先取りをすることといった視点が非常に重要。● 市民の意見を取り入れ、多くの意見を良い方向にまとめ、真備の特長を生かした計画、まちづくりの新たなモデルとなる計画に。

目的

真備地区の復興に向けて、住民の皆様が一日も早く落ち着いた生活を取り戻し、真備地区外で仮住まいをされている方々も真備に戻り、安心して暮らせるようになることを目的とします。

計画対象地域

倉敷市真備町全域

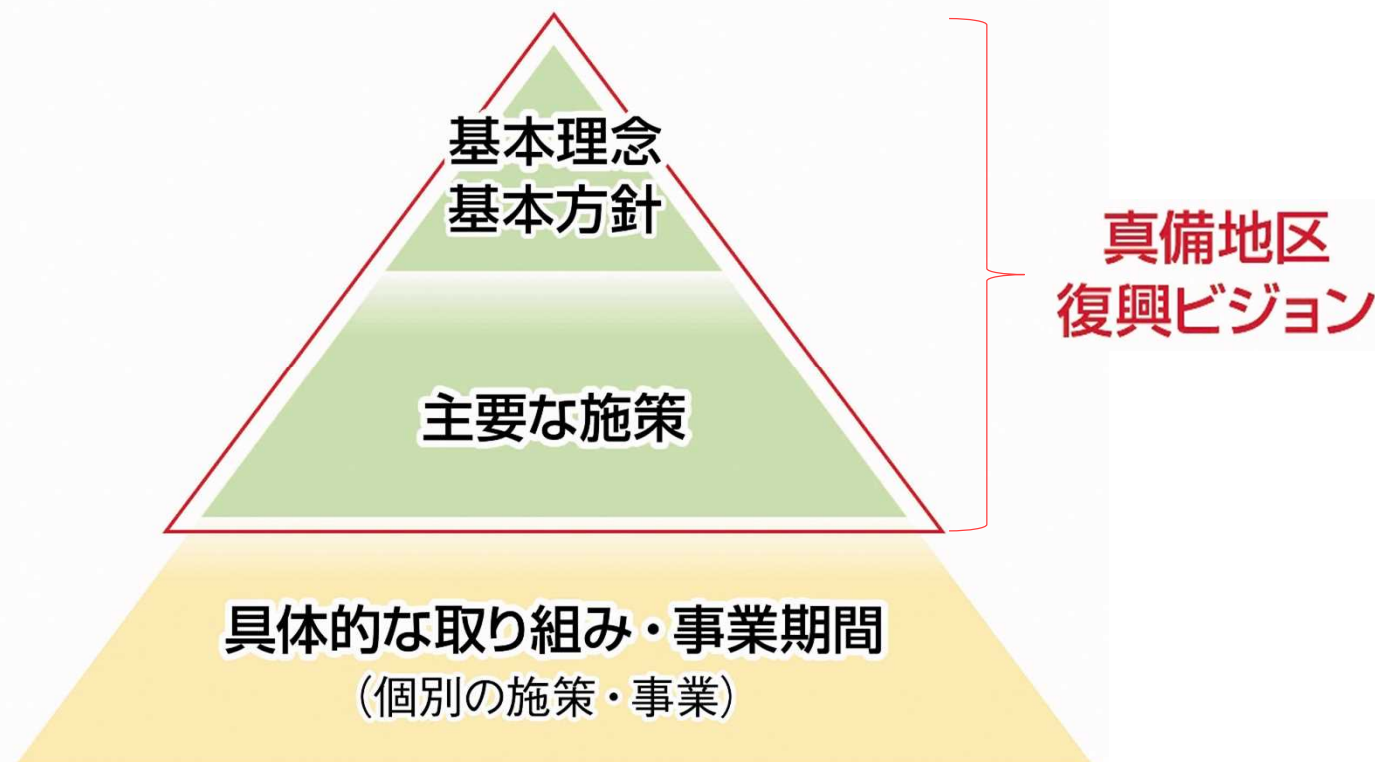
計画期間

5年間（2019年度～2023年度）

- 真備地区の復興に向けた基本理念・基本方針や、主要な施策をとりまとめた復興ビジョンを策定
- 復興ビジョンに基づき、具体的な取り組みや事業期間等の検討を進め、復旧・復興を着実に推進するための復興計画を策定

真備地区復興計画

(平成31年3月末公表)



倉敷市都市計画マスタープランにおける真備地区のテーマ

豊かな自然と歴史・文化に包まれたまち・真備

基本理念 (案)

豊かな自然と歴史・文化に包まれた真備
～安心・きずな・育みのまち～

安心

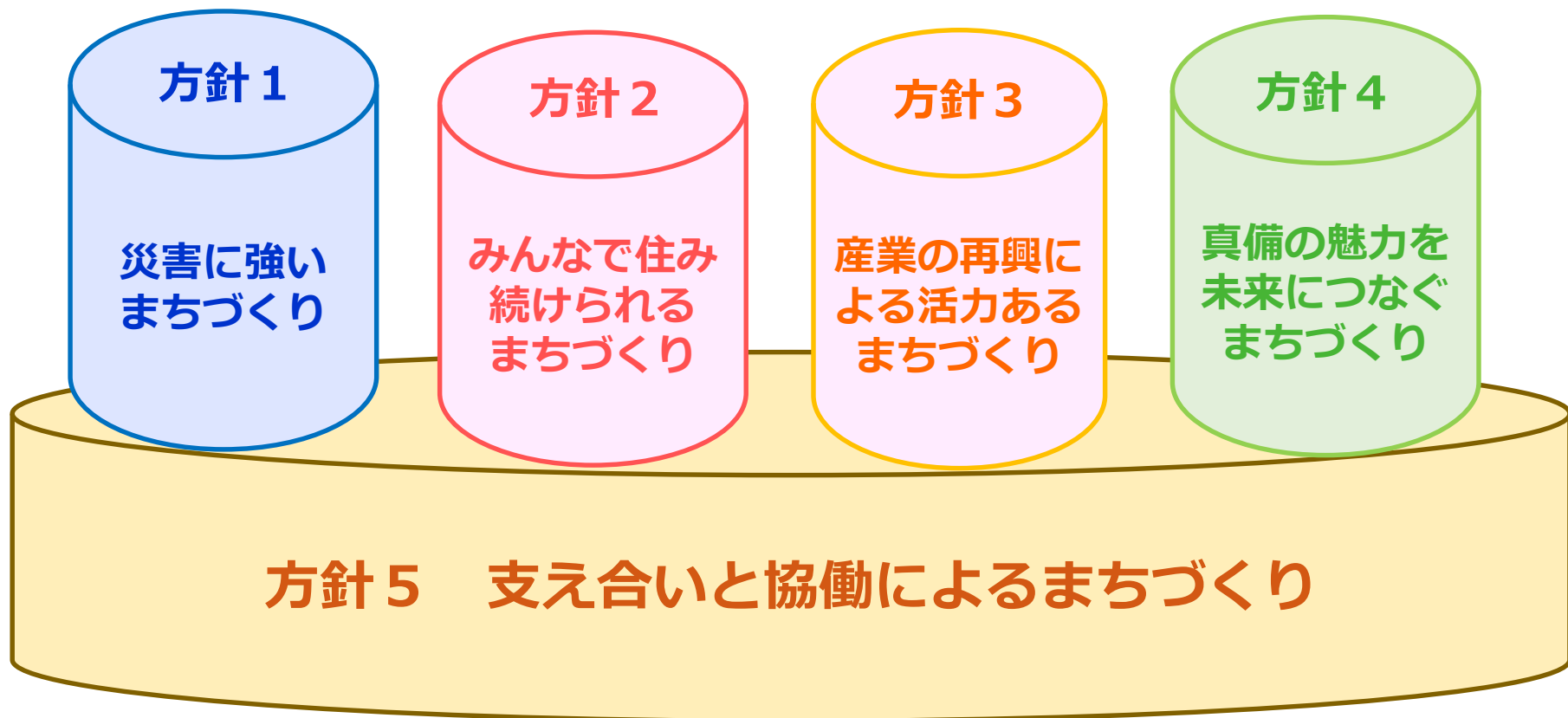
住みなれた地域で、安心して落ち着いた生活を送れる

きずな

人々がつながり、支え合うことで、よりきずなが深まり、笑顔があふれる

育み

真備の魅力ある産業と地域資源を生かし、育み、未来につなぐ



■ 方針1 災害に強いまちづくり

主要な施策

① まちを守る治水対策

- 小田川合流点付替え事業の早期完成
- 国・県・市が連携した、小田川及び末政川・高馬川・真谷川の堤防強化
- 河川改修事業の進捗状況の見える化など、わかりやすい情報提供

② 身近な緊急避難場所の確保

- 各学区に緊急避難場所を確保する

■ 方針1 災害に強いまちづくり

主要な施策

③ 地区ごとの防災体制づくり

- 住民による地区防災計画の作成と、教訓を活かした防災教育等を通じた防災意識の向上
- 高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが安全な場所に避難できるように、支え合いと協働により避難体制を強化
- 今回の災害を後世に伝え、将来に備える

■ 方針2 みんなで住み続けられるまちづくり

主要な施策

① 被災者の生活支援

- 生活再建に向けた各種支援の継続と、支援制度の情報提供
- 健康状態の確認や孤立防止などのための見守り支援

② 安定した住まいの確保

- 生活の基盤となる住まいの自力再建の支援
- 被災家屋の解体撤去支援
- 民間の地域優良賃貸住宅などの整備促進
- 被災した市営住宅の再建
- 自力再建が困難な方のための災害公営住宅の整備

■ 方針2 みんなで住み続けられるまちづくり

主要な施策

③ 暮らしを支える公共施設等の復旧

- 支所・消防分署・学校・幼稚園・保育園・文化施設などの公共施設、医療・福祉施設などの暮らしを支える各種施設の早期復旧
- 復興の段階に応じた公共交通など移動手段の確保
- 地域コミュニティの再生に向けた、住民活動の拠点となる施設の早期復旧

■ 方針3 産業の再興による活力あるまちづくり

主要な施策

① 農業の再興

- ・被災農業者の早期営農再開に向けた支援
- ・農業者にとって魅力とやりがいのある農業構造への転換

② 地域企業の再興

- ・被災中小企業の早期事業再開に向けた支援
- ・地域資源を活かした販路開拓支援

③ 賑わいと交流の創出

- ・復興イベントなどへの支援
- ・吉備真備公・日本遺産の箭田大塚古墳・金田一耕助など、全国レベルの観光資源を活かした取り組み

■ 方針4 真備の魅力を未来につなぐまちづくり

主要な施策

① 豊かな自然・歴史・文化の魅力を発信

- 真備の自然・歴史・文化など地域資源を活用し、真備の魅力を全国・世界に発信することで、交流人口を拡大

② 未来につながるまちづくり

- 賑わいや交流の促進に向けた都市機能の強化による、今後の少子高齢化社会に対応した持続可能なまちづくり

■ 方針5 支え合いと協働によるまちづくり

主要な施策

① 住民主体のまちづくり

- 住民、事業者、NPO、各種団体、行政などが相互に連携し、復興に係わる全ての人々が主体的にまちづくりに参画

② 国・県・市の連携による情報提供

- 国・県・市が連携して推進する、復興計画に掲げる復旧・復興の取り組みや進捗状況などのわかりやすい情報提供

「真備地区復興計画」策定に向けたスケジュール

- ・「復興ビジョン」（基本理念、基本方針、主要な施策）を12月末に公表予定。
- ・委員会や住民のご意見、住民意向調査の結果を反映し、具体的な取組み・事業期間等を記載した「真備地区復興計画」を、年度末までに公表する予定。

